

星野恭子先生プロフィール



出身：東京、渋谷

1983年3月

田園調布雙葉学園高等学校卒業

1990年3月

東邦大学医学部卒業

2001年10月24日

医学博士号 東邦大学にて授与

職歴：

1990年6月～1992年3月

東邦大学医学部附属大森病院

第一小児科学教室にて研修同教室入局

1992年4月～1993年7月

聖ヨゼフ病院（神奈川県横須賀市） 小児科 常勤

1993年8月～1993年10月

東邦大学 医学部 第一小児科 助手（小児科学第一講座）

1993年11月～1994年6月

東邦大学 佐倉病院 小児科学講座 助手

1994年7月～1995年5月

横浜療育園（重症心身障害児者施設） 小児科常勤

1994年7月～1995年5月

東海大学 児童精神科学教室 児童精神科学教室 外来研修

1995年6月～2000年3月

東邦大学 医学部 小児科学第一講座 小児科学第一講座 助手

2000年4月～2005年3月

瀬川小児神経学クリニック 常勤

2003年5月～2005年3月

早稲田大学理工学部薬理学教室 非常勤研究員

2005年4月～2014年12月

瀬川小児神経学クリニック 非常勤医師

2005年4月～2011年6月

埼玉医科大学 総合医療センター 小児科 助手

2010年6月～現在

東邦大学 医学部 客員講師

2010年7月～2014年12月

国立病院機構南和歌山医療センター 小児科 小児科医長

2011年8月～現在

埼玉医科大学 総合医療センター 小児科 非常勤医師

2005年4月～現在

朝霞台中央病院 小児科 非常勤医師

2005年4月～現在

藤枝市立病院 小児科 非常勤医師

2014年12月～現在

国立病院機構南和歌山医療センター 小児科 非常勤医師

2014年12月～2017年9月

小児神経学クリニック 院長

2017年10月～現在

医療法人社団 昌仁醫修会 瀬川記念小児神経学クリニック理事長

2019年5月～現在

一般社団法人 瀬川小児神経学研究所 所長

専門分野：

小児内科、小児神経科、児童精神科

受賞歴：

2013年3月7日 優れた「早寝早起き朝ごはん」運動の推進にかかる文部科学大臣授賞
「子どもの早起きをすすめる会」（発起人 神山潤、鈴木みゆき、星野恭子）

2018年 第28回 日本外来小児科学会 優秀演題賞受賞

「生後3～4か月の睡眠リズムの確立と自閉スペクトラム症（ASD）の発症について
～小児神経専門クリニックにおける検討」

2021年 日本医師会赤ひげ大賞 赤ひげ功労賞受賞

資格：

日本小児科学会専門医

日本小児神経学会専門医

役職：

日本小児神経学会評議員

日本睡眠学会評議員

日本睡眠学会教育委員会委員

日本パーキンソン病・運動障害疾患学会評議員

MDS TaskForce and Pediatric member.

日本小児神経学会社会保険・薬事委員会委員

日本小児神経学会チック診療ガイドライン策定WG委員

日本小児神経学会 子どもの眠り研究会世話人

公益社団法人神田医師会理事

NPO 法人日本トゥレット協会理事

千代田区いじめ問題調査委員会委員

千代田区医療的ケア児等支援協議会委員

千代田区インクルーシブ教育推進委員会委員

子どものこころのケア研究会世話人

東京都医師会学校精神保健検討委員会委員

不眠研究会世話人

社会と共に子どもの睡眠を守る会（旧 子どもの早起きをすすめる会）発起人

極少量エルドパ療法研究会発起人

出版：

- ・早起き脳が子どもを伸ばす（風韻社 2004年）
- ・家族そろってぐっすり眠れる 医者が教える赤ちゃん快眠メソッド 監修（ダイヤモンド社 2020年）
- ・あかちゃんすくすくおうたえほん（ベネッセ 2021年）
- ・チック・トゥレット症の子どもたち（合同出版 2023年）

プロフィール：

東邦大学大森病院第一小児科にて研修、関東の病院にて勤務後、2000年、旧瀬川小児神経学クリニック研修中に早起きサイト（現 社会と共に子どもの睡眠を守る会）を結成。2005年早稲田大学にて時計遺伝子研究を経て、2010年から和歌山県南紀の南和歌山医療センターに勤務。全国での講演や和歌山県教育委員会はじめ地方自治体のパンフレット作成や啓発活動に協力、2013年に文部科学大臣表彰を受賞した。2014年瀬川昌也院長先生が御逝去されたことから、2015年小児神経学クリニック院長に就任、2017年10月1日クリニックの医療法人化により医療法人社団 昌仁醫修会（しょうじんいしゅうかい） 瀬川記念小児神経学クリニック理事長として、臨床研究を中心とした睡眠の啓発活動の拠点を目指している。2021年、今までの医療、全国での講演、地域医療への貢献が評価され「日本医師会赤ひげ大賞 赤ひげ功労賞」受賞。